### **ファウスト（FAUST）**

クリオス自由都市連合のスラム地域において目撃された、**ヤファル・インダストリー クリオス支社製のパワードスーツ型兵器**。ヤファル・インダストリー本社が製造する従来のパワードスーツとは異なる構造・挙動を示しており、**クリオス支社独自の技術を用いた派生系機体と見られている**。

外見は**全高2.5メートル前後の大型機体**で、重厚な装甲と無骨なフォルムが特徴。とくに胴体部から四肢まで一貫して“厚み”のある設計がなされており、**歩兵火器では傷一つつかない極めて高い防御性能**を誇る。移動は基本的に鈍重な歩行だが、**高出力のサーボジャンプによって突然距離を詰める挙動が確認されており、短距離での爆発的接近戦能力**を持つ。

武装構成は非常にシンプルで、**内蔵型の近接格闘装置、突進、打撃を主体とした設計**が確認されているほか、**打ちっ放し式の小型誘導ミサイルユニット**も装備している。射撃や精密照準を伴う複雑な兵装は搭載されておらず、あくまで接近戦を前提とした“機体そのものを武器とする”思想が根幹にあると推察される。

正式な実戦投入は未確認だが、クリオス支社がスラム地域で行っていた**非公式な実地試験中に、複数のPMC（民間軍事会社）との交戦記録が確認されており、一定の戦闘能力を有していることは明らかである**。同機の稼働中、通信妨害や監視機器の撹乱も発生しており、詳細な解析は難航している。

なお、**同機の制御方式は明言されておらず、完全自律型AIによる無人兵器説、外部からの遠隔操作型説、あるいは中に生体ユニットが組み込まれているという“生物兵器搭載説”まで複数の憶測**が流れている。実際に操縦者が存在するのか、存在するとすれば人間か否か――いずれも真相は不明であり、**その異様な挙動と沈黙を貫く戦術から、“鉄の亡霊”と呼ばれることもある**。

また、ファウストの戦闘行動においては、**周囲の機器や環境制御装置（電動ゲート、防火シャッター、警報装置など）に対し、直接的・瞬間的な干渉を行っていると見られる挙動が複数回観測されている**。外部ネットワークへのアクセス痕跡や電子的信号の発信は確認されておらず、**通常のハッキング手法では説明がつかない“機械との共鳴”とも言えるような現象**が発生しており、研究者の間では**特殊な神経波形や未知の干渉プロトコル**による影響が疑われている。

さらに、交戦記録の一部では、**別型の無人機体（ファウストとは異なる外見を持つパワードスーツ）が随伴・護衛のようにファウストに追従し、連携する様子**も報告されている。これらの随伴機体は、**統一された動作パターンを持ち、明確な指揮系統を持たずに自然な隊列行動や戦術展開を行っていた**とされ、AIによる自律行動とも、遠隔操縦による制御とも異なる、**未知の制御方式が用いられている可能性が高い**。

これらの特異な挙動は、ファウスト単体の戦闘力に留まらず、**戦術単位での“場そのものの支配力”を示唆するものであり、単なる重装型兵器ではない戦術兵装としての側面**を持つ。あくまで確認されているのは限定的な交戦事例のみだが、今後の本格運用が開始された場合、従来の兵器体系では対処が難しいとする見方も出ている。

現段階では、**クリオス支社がファウストの存在について一切のコメントを避けていることから、同機の真の目的と設計思想については謎に包まれている**。